

## 新編延岡市史編さん事業（案）の概要

### 1 事業の目的

延岡市は、豊かな歴史と文化を有する本市の歴史資料や文化財を収集保存し、後世に継承するとともに、市民の郷土への関心と愛着を深め、地域の連帯感やふるさと意識を高揚し、まちづくりに活かしていくため、本市の歴史、文化、民俗等について、体系的にまとめた新たな延岡市史の編さん事業に取り組みます。

### 2 編さん期間について

編さんに当たっては、各分野にわたり様々な歴史資料の調査、検証およびそれらを踏まえた研究に時間を要すると考えられます。このようなことから、市制施行100周年を迎える令和14年度末までを目途として、次の「3 市史としての刊行物について」に示す市史を計画的に順次刊行して行く予定です。

### 3 市史としての刊行物について

古代から現代までの本市の歴史を体系的にまとめた通史編、およびその基礎となる歴史資料等をまとめた史料編等で構成する「（仮称）新編延岡市史」を刊行します。編さんに当たっては、豊かな歴史と文化を有する本市に相応しい特色ある市史づくりに努めます。

全編の構成は、本市の特性を踏まえつつ同様の内容・規模でまとめた他市の例等を参考にして全体で約17巻（各巻概ね800～1000頁）程度を想定しています。

#### <他市の構成例>

通史編：自然、原始、古代、中世、近世、近代、現代

史料編等：考古、古代、中世、近世、近代、現代、民俗、伝承、文化財

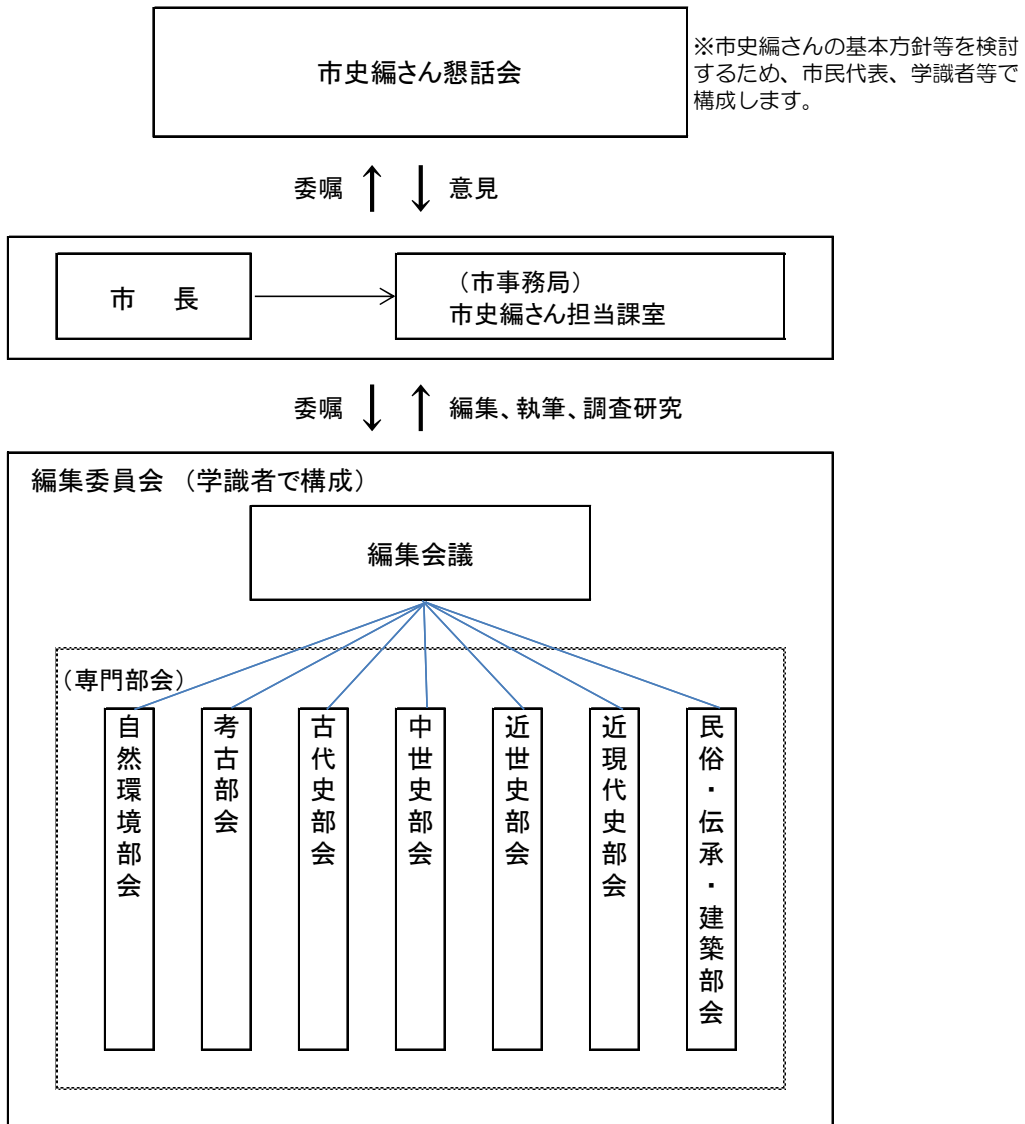
※1 一般的に自治体史の編さんに当たっては、現存する文化財や発掘調査報告書、古文書など地域の歴史に関する様々な史料を調査、研究のうえ史料編を編さんし、それを踏まえて通史編を編さんすることとなります。

※2 本市においては、市制施行以降ほぼ10年毎に「延岡市史」を刊行していますが、内容は市制施行以降の行政史が中心であり、古代から現代までの本市の歴史を体系的にまとめた本格的な通史の編さんは行っていない状況です。

#### 4 編さん組織体制について

現在、他自治体の調査等を行いながら、次年度以降の市史編さん組織体制の検討作業を進めておりますが、同様の内容・規模で市史編さん事業に取り組んだ他市の例においては、一般的に次の様な組織体制で市史編さんに取り組んでいます。

推進体制の例（イメージ図）



- ※ 1 編集委員会は学識者で構成し、市史の編集、執筆並びにそれに必要な調査及び研究を行います。
- 2 分野毎に専門の学識者で構成する専門部会を設置します。
- 3 市史全編に共通した編集、記述内容等の調整等を行うため各専門部会代表者等からなる編集会議を設置します。

## 5 事業費について

現時点では、具体的な市史の編さん内容、史料調査範囲等本事業の全体像等が確定していないため事業費の詳細算定は困難な面がありますが、同様の規模・内容で取り組んだ都城市の例では、編さん期間が平成3年から平成17年までの15年間で、事業費（市職員人件費除く）は約5億2千万円ですので、本市の事業費も同程度になることが考えられます。

### <都城市史の例>

編さん期間 平成3年～平成17年  
刊行内容 全17巻（通史編3巻、資料編13巻、その他1巻）  
事業費 約5億2千万円（市職員人件費除く）

（内訳）

項目	主な内容	費用 (百万円)
人件費	編さん委員会委員（学識経験者等19名程度）報酬、 専門的な嘱託職員（3～4名程度）賃金等	100
報償費	各専門部会委員、調査員等（100名程度）謝金等	80
印刷製本費	刊行物の制作費	180
役務費	原稿素案の執筆料や最終的な原稿の筆耕料	50
委託料	史料調査にかかる委託料 （旅費や史料撮影ほか調査に必要な費用）	80
その他事務費		30
合計		520

※ 市史編さん業務は、史料に基づき史実を明らかにしながら進める作業です。  
そのため、一般的に編集委員や専門部会の委員には、大学教授等の専門家に加わってもらいながら、史料を追及して学術的な調査を行います。

したがって、例示した費用につきましてはあくまでも目安であり、招聘する委員の人数や居住地、また、県内に限らず調査が必要となりますので、史料の所在地や分量により人件費や調査費用は異なってきます。